

令和 5 年 6 月 23 日現在

機関番号：24701

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K10648

研究課題名（和文）幼児自身が回答する絵カード式QOL尺度の開発とその有効性の検証

研究課題名（英文）Usefulness of the self-report scale of quality of life for young children using picture cards

研究代表者

岡本 光代（Okamoto, Mitsuyo）

和歌山県立医科大学・保健看護学部・准教授

研究者番号：50458080

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、A県B市およびC市の保育園、保育園に通う5～6歳の幼児を対象に、聞き取り調査、および幼児の保護者を対象に記名式質問紙調査を行い、幼児が回答する絵カード式QOLの有用性を検討した（有効回答数117名）。絵カード式QOLの探索的因子分析の結果、3因子11項目が得られ、絵カード式QOLの基準関連妥当性を検証した結果、絵カード式QOL（親）との有意な弱い正の相関が認められた。は、SDQ - Total difficulties scoreとの有意な中程度の負の相関が認められた。絵カード式QOLは幼児への負担が少なく簡便なQOL尺度であり、基準関連妥当性を確認できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

幼児が回答するQOL尺度の基準関連妥当性を検証した初めての研究であり、主観的な幼児のQOL評価の推進に向けての端緒を得たものである。今後、主観的な幼児のQOL評価に関する調査・研究及び実践に寄与すると考えられる。例えば、5歳児健康診査や保育場面で用いることで、幼児の観点から健康や発達、家庭や地域での適応状況を評価することが可能となると考える。

研究成果の概要（英文）：This study examines the usefulness of picture card-type QOL scale. We conducted an interview survey of children aged 5 to 6 years old attending nursery schools in cities B and C in A Prefecture, and a questionnaire survey targeting the guardians of the children. (117 valid responses)

As a result of exploratory factor analysis of picture card-type QOL scale, 11 items of 3 factors were obtained, and had a significant moderate negative correlation with the SDQ-Total difficulties score. The picture card-type QOL scale is a simple scale with less burden on young children, and criterion related validity was confirmed.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：幼児 QOL 尺度開発 自己回答

## 1. 研究開始当初の背景

これまでの子どもの QOL の評価には医師や保護者が代理回答するものが多かったが、代理回答では十分に把握できない面があることから、近年子どもが自己回答する QOL 尺度が開発されている。共同研究者である小林らは、簡便な方法で幼児に直接聞き取ることができる絵カードを用いた幼児版 QOL 調査票 (以下、幼児版 QOL) を試作し<sup>1)</sup>、筆者らによって信頼性・妥当性の検証が行われ、基準関連妥当性が得られた<sup>2)</sup>。一方、幼児が回答しづらいものや幼児の生活を捉えるのに不十分な絵カードもみられたため、絵カードを改定し、再度信頼性、妥当性の検討が必要である。

## 2. 研究の目的

本研究は改訂版幼児 QOL の基準関連妥当性を検証することを目的とした。

## 3. 研究の方法

### (1) 調査対象

A 県 B 市内と C 市内の公立保育所、私立保育園、認定こども園全 16 施設に協力を依頼し、合計 15 施設 (以下、「施設」とする) に通う 5~6 歳の幼児 397 名とその保護者を対象とした。

### (2) 調査方法

幼児に対する聞き取り調査：小林らが開発した幼児用 QOL 調査票について、筆者らが信頼性、妥当性を検討した結果を参考に、絵カードを改編した幼児版 QOL24 項目を用いた。

保護者に対する自記式質問紙調査：幼児版 QOL について、我が子がどのように回答すると思うかを訊ねた (幼児版 QOL (親))。そのほか、WHOQOL-26 日本語版 26 項目<sup>3)</sup>、Strength and Difficulties Questionnaire (SDQ) 25 項目<sup>4)</sup>を用いた。

幼児と保護者の結果を連結させるために質問紙は記名式とした。幼児への聞き取りは、母子保健に従事した経験のある保健師 2 名がマンツーマンで行った。調査期間は、令和 5 年 2 月~3 月であった。

### (3) 分析方法

幼児版 QOL 得点と幼児版 QOL (親) 得点における平均値の差の検証には、独立したサンプルの  $t$  検定を用いた。

幼児版 QOL の基準関連妥当性の検証には、以下の手順で行った。

幼児版 QOL の探索的因子分析を行った。内的整合性を検証するために、クロンバック 信頼性係数を算出した。

で抽出された因子を用いて、幼児版 QOL、幼児版 QOL (親) それぞれの得点を算出した。

の得点を用いて、幼児版 QOL (親) と WHOQOL26 得点、SDQ - Total difficulties score との相関係数を算出した。

の得点を用いて、幼児版 QOL と幼児版 QOL (親) との相関係数を算出した。

(4) 倫理的配慮

本調査は和歌山県立医科大学倫理委員会の承認を受けて実施した（令和5年2月9日付承認番号3747）。

表1 幼児版 QOL の質問項目（24 項目）【幼児への説明文】

領域	項目内容
日常生活	病院へ行く
	朝起きる
	お風呂に入る
	外遊びをする
	室内遊びをする
	食べる おやつを食べる
家族関係	家族で食べる
	お買い物をする
	絵本を読む
	お手伝いをする
	母と過ごす 父と過ごす 祖父母と過ごす
	社会性
友だちとルール遊びをする	
保育園に行く	
保育園の先生と過ごす	
身辺自立	歯みがきをする
	排泄する
	着替える
	片づける
健康	健康状態A(痛い)
	健康状態B(しんどい)

1日の様子を書いた絵カードがあります。この絵カードを、1枚ずつ順番に見てもらいます。〇〇ちゃんがこの絵と同じようにしているときのことを思い出してください。そして、〇〇ちゃんがそのときどんなお顔になるか答えてください。答えは「好き嫌いカード」の「大好き、好き、少し好き、嫌い、大嫌い」の5つのお顔から当てはまるものを1つ指さしてください。質問が分からないときや思い出せないときは教えてください。お話をやめたいときは「やめるカード」を出してください。



図1 幼児版 QOL の説明方法と絵カード

4. 研究成果

(1) 結果

15 施設 133 名(回収率 33.5%)から回答を得た。保護者の調査票に記載不備が多いもの、幼児の聞き取り調査に対する保護者の同意書がないもの計 13 名と、幼児の聞き取り調査に対して幼児が拒否を表明した 3 名を分析対象から除外し、有効回答数は 117 名(有効回答率 29.5%)であった。

幼児の平均年齢(月例換算)は 76.3(標準偏差 ± 4.3)か月であった。保護者の回答は、母親 108 名(92.3%)、父親 8 名(6.8%)、祖父母 1 名(0.9%)であった。保護者の平均年齢は 38.0(標準偏差 ± 6.1)歳であった。

幼児の聞き取り調査所要時間は、10 分未満 105 名(89.7%)、10 分以上 12 名(10.3%)で、平均所要時間は 7 分 48 秒(±1 分 46 秒)であった。

幼児版 QOL の因子構造を明らかにするために探索的因子分析を行った。主因子法(プロマックス回転)で固有値 1 以上のものを因子としたところ 3 因子が抽出された。因子負荷量がすべての因子について 0.35 未満、あるいは 2 因子にまたがって 0.35 以上を示す 13 項目を削除した結果、11 項目を選出した。第 1 因子は、「片付け」「起床」「歯みがき」「友だち」「排泄」「手伝い」「外遊び」の 7 項目で構成され、「日常生活」と命名した。第 2 因子は「父と過ごす」「母と過ごす」の 2 項目で構成され、「親」と命名した。第 3 因子は、「しんどい」「痛い」の 2 項目で構成され、「健康」と命名した。

探索的因子分析で抽出された 3 因子 11 項目を用いて、幼児版 QOL(親)得点を算出し SDQ - Total difficulties score との相関を確認したところ、有意な中程度の負の相関を認め、幼児版 QOL(親)の基準関連妥当性が示された。また、幼児版 QOL(親)得点は、幼児版 QOL 得点との間に、有意な弱い正の相関を認めた。3 因子それぞれの得点は、幼児版 QOL と幼児版 QOL(親)との間には、「親」と「健康」の因子において強い正の相関を認めた。

## (2) 考察

幼児版 QOL 得点の平均値の得点分布は高い方に偏っていたため、絵カード式 QOL 得点の低い幼児の結果が含まれていないと考える。

幼児の回答状況は、すべての項目に回答し、89.7%の幼児が 10 分未満で調査を終了した。一方、3 名の幼児は調査への拒否を表明した。調査中は拒否を示すカード（やめるカード）を渡していつでも拒否を表明できるようにしたことで、保護者が同意したとしても幼児自身の判断で調査への同意の意思表示ができていた。これらのことから、幼児版 QOL は、幼児への負担が少なく、簡便に幼児が回答することができると考えられる。

幼児版 QOL 得点より、幼児版 QOL（親）得点のほうが高かった。子どもの QOL は子どもの主観的な評価が最も重要であり、5 歳であれば QOL を適切に自己評価できるこれらのことから、幼児の QOL 評価は保護者の代理回答ではなく、幼児から直接回答を得る必要があると考える。

本研究結果から、幼児版 QOL 得点は、幼児版 QOL（親）との有意な弱い正の相関が認められ、基準関連妥当性を確認することができた。特に、第 2 因子「親」第 3 因子「健康」については、保護者が幼児の状態を捉えやすいことから幼児と保護者との回答に強い相関が認められた。また、調査協力者は比較的 QOL が高い者であったことも影響していると考えられる。一方、第 1 因子「日常生活」は、保護者は幼児と一緒にいない時間の様子を捉えることができず、本尺度の必要性が改めて確認された。

幼児の思いや考えを直接反映し、幼児への負担をかけずに測定することができる幼児版 QOL が有用であることが示唆された。

本研究の限界と課題として以下の点が挙げられる。本調査の対象者の回収率は約 3 割であり、決して高いとは言えない。また、対象者の幼児は絵カード式 QOL 得点が高い方に分布していたことから、本調査の対象者には偏りがある可能性があり、一般化するには注意が必要である。今後、調査対象者を拡大して検討する必要がある。本調査では対象者の負担等を考慮して再調査法を実施しなかった。また、探索的因子分析により抽出された各因子の信頼性係数は十分とは言えず、さらなる検証が必要である。

### <引用文献>

- 1) 林田りか, 増山めぐみ, 坂井亜耶, 他. 幼児の QOL (第 2 報) - 幼児の QOL 調査票の開発と応用. *Quality of Life Journal* 2013; 14 (1): 65-76 .
- 2) 岡本光代, 山田和子, 谷野多見子, 他: 幼児が回答する絵カード式 Quality of Life 尺度の有用性. *小児保健研究*, 72, 72-80 .
- 3) 田崎美弥子, 中根允文. WHOQOL 短縮版 - 使用手引き. 東京: 金子書房, 1997: 13-27 .
- 4) Sugawara M, Sakai A, Sugiura T, et al. SDQ: The Strength and Difficulties Questionnaire. <http://www.sdqinfo.com/> (2023-6-15)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山田 和子  (Yamada Kazuko)  (10300922)	四天王寺大学・看護学部・教授    (34420)	
研究分担者	森岡 郁晴  (Morioka Ikuharu)  (70264877)	和歌山県立医科大学・保健看護学部・教授    (24701)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関